明治大学大学院国際日本学研究科特別講義

現代フランスを代表するバンド・デシネ作家の一人
エマニュエル・ルパージュ　講演会

「革命」と「原発」と
～社会を描くバンド・デシネ～

ニカラグアの革命に身を投じた少年の成長を描いた代表作『ムチャチョ～ある少年の革命』が今年４月に邦訳されて評判をよんだフランスの B.D. 作家、エマニュエル・ルパージュ氏をお招きしてお話をうかがいます。また、氏の最新刊として、チェルノブイリ滞在を元にして描かれた『 チェルノブイリの春』が本国で発売されたばかりです。「芸術性」が強調されるバンド・デシネ（フランスのマンガ）界の中にあって、「革命」や「原発」といった社会問題、そして少年の成長や同性愛という主題を描くことの意味を語っていただきます。

日時：11 月 16 日 (金)
　　18:00 ～ 20:30
会場：明治大学和泉キャンパス
　　和泉図書館ホール（１階）
講師：エマニュエル・ルパージュ
　　（M.Emmanuel LEPAGE）
通訳：大西愛子

1966 年、ブルターニュ生まれ。6 歳のとき『タンタン』に出会い、13 歳で、『スピルー』の作画家ジャン＝クロード・フルニエの個人指導のもと、バンド・デシネの作画を学び始める。建築の勉強の傍ら、1987・88 年に最初のアルバム２冊を発行。登山中の事故で父親を亡くした少年の成長を描いた『Névé（ネヴェ）』（ディーテル脚本、全５巻、1991~97 年）で一般読者の注目を浴び、2000 年刊行の『La Terre sans mal（悪なき土地）』（アンヌ・シブラン脚本）は、ルパージュの名を揺るぎないものにした。これは、アマゾンの奥地で原住民の集落と出会う女性記者の物語で、ルパージュ自身の中南米での８ヶ月の長期滞在をもとにしている。この体験を元に、さらに 2004・06 年に、彼の代表作ともいえる『ムチャチョ』２部作を刊行。また、チェルノブイリ滞在の経験を描いた最新刊「チェルノブイリの春」が発売されたばかりである。

予約不要。学部生、学外の方も受講可です。

問い合わせ先：国際日本学研究科
TEL 03-5300-1536